機動隊導入・ロックアウト　アンケート

一〇〇日も続いた全学のバリケードも九日の機動隊導入・当局ロックアウトで取り除かれた。しかしながら問題の解決ではなく、さらに一層学生側は硬化するものとみられ、紛争は新たな局面を迎えている。本紙では、「機動隊導入・ロックアウト」問題に関する学内各関係者のアンケートその2を企画、ここにまとめてみた。なお、前回のアンケートは「バリケードスト・授業再開」であった。

管理者の無能力さの露呈

飛島田一雄

特別意見はないが、いいと思ったことはどこまでもとことんやれというのが私の信条だ。学生運動もその意味で自己に忠実にいいと思ったことは徹底して行なうべきと思う。機動隊導入によって大学紛争を解決するということは、大学の管理者の無能力をさらけ出したものであり、賛成はできない。

（横浜市長・昭和12年法卒）

好ましい処置ではないが―

芦沢新二

今回の大学の処置は好ましくはないけれども、学生が社会に不安を与えるようになってしまった以上、止むを得なかったと思う。

バリケード・ストライキの意義は認められない、むしろ他に何んらかの方法があるのではないか。

数年前の闘争ではクラスを中心として、組織的にも見るべきものがあったが、最近はセクト色が強まり、力で解決しようとする気配がみられる。形式的代表をうんぬんするよりも、大勢の学生の意見を集約することが有意義ではないのか、どうすれば集約できるのかむしろ学生に問いたい位である。

大学当局に望むことは、今回の紛争の意義を考え、多くの学生の意見を入れた社会進歩に見合う、時代を先取りした改善をしていただきたいと思っています。

（法人監事・三和鉄軌社長）

大学院図書館はひどい状況

岩下篤広

大学の内部を見てもらえばわかってもらえると思うが予想以上に学生の破壊が激しい。図書館の管理者として、大学当局のとった機動隊の導入の措置は、止むを得なかったといえる。ただ、幸いにして、本校の図書館の被害が少ないことにホッとしている。生田地区や和泉地区の図書館の被害状況はまだ報告されていないので、どの程度の損害かわからない。それにしても、大学院図書館の荒廃ぶりはひどく目に余る。今回の六月から続いた紛争に対する見解を、わたくしが個人的見解として、ここで述べるわけにはいかないが、ともあれ、早く正常化の状態へ復帰してもらいたいし、学生諸君は授業の遅れをとり戻してもらうよう、頑張ってほしい。

（図書館長・政経学部教授）

大学紛争は大学の公害だ

今村成男

大学の決定と同じことであるが止む得ないということだ。大学がこの社会に存在する以上、社会的責任というものを無視することはできない。社会のために研究だけやっていればよいというわけではない。悪いことはしていけないのである。社会に害を及ぼすようなことはさけなくてはならない。バリケードを築いて、学生が大学を拠点にすることは、いわば大学の公害だと思う。本学の現状が、他大学へ比べて劣っているとは思えない。ただ、この紛争でいままで忘れていたことに気がついたことがある。マスプロ化して、学生は野放し同然の状態である。しかし、それでは大学の構成員としての新しい出発に参加はできない。学生の自覚と責任ある行動がとれるよう、教育をしてやらなければならないと思った。

（経営学部長）

大学の人と制度の改革を

岩本浩明

バリケード封鎖も不幸であるがロックアウトも不幸な事態だ。しかし大学としてはこうする他仕方がなかったのだからこの中から大学の全構成員が意識を新たにして、大学の再建に立ち上る以外に大学を救う道はない。

生田地区においては、その方法はともかくとして、実験助手と学生の行なった問いかけには、真剣に応えねばならぬ点があることを認めて、大学の人と制度について出来得る限りの改革を推し進めねばならぬと信ずる。

（農学部長）

止むを得なかったが遺憾

大木芳朗

大学人自らの手による"自主解決"を願っていた。私自身も一教師として、バリケードの中に入って努力を続けたが、歩み寄れなかった。機動隊を入れたということは止むを得なかったかも知れないが、遺憾であった。今後は、大学の民主的改革を早急にお願いしたいと考えている。授業再開もできるだけ早い内に開始してもらいたい。学生諸君に学生自治の重要さというものを充分に認識した上で責任を持って行動してもらいたい。

（教職組委員長・政経学部教授）

ネトライキが一番いけない

沖田哲也

世間では警官導入に関して神経質になっているようであるが、本学の場合、他大学とはいく分事情が変っていると思う。警官が大学構内へ入る場合、三つのケースが考えられる。捜査の場合、不意に導入される場合、予告して導入される場合の三つである。本学の場合、いく分予告的なところがあって、これが他大学と違い、ゆるやかなユニークなケースだと思う。だから、その導入の批判も一般的なものとは次元の異なったものではないかということが卒直な感想である。スト派に対して、いわゆるノンポリ諸君の反対派が組織化されていないのが特徴だが、うちほどバリケードに対して批判の少なかったところは珍しいのではあるまいか。今後、大学側は学生に対しては何事もあいまいにせず授業をうけるための条件や、四年生の卒業条件やらをはっきりと示すべきだ。学生は学生としての運命がどうなるのかということを認識してほしい。結論的にいえば、ネトライキが一番いけないということだ。

（専教連幹事長・政経学部教授）

大学の幹部の交代も考えよ

北耕二

詳しいことはよくわからないが新聞によれば、明治・早稲田・法政が学生の拠点校になっており、特に明大は武器納庫だといわれている。私は中川学長に、この段階では入試や四年生の問題もあり、また自主解決はほとんど望みはもてない、早い時期に機動隊を導入せよと申告していた。そして、その二日後に導入されたのだが、この措置は適当だと思った。正常化には教職員が一体となることが肝心であるが、聞くところによると学生の意見に賛成する教員もいるという。残念なことだ。学生参加という制度は反対ではないが、今の時点では時期尚早だと思う。授業を受けたい学生の数は絶対多数だ。早く正常化して、再開されんことを望む。また、大学の幹部の交代もあってもいいんではないかと思うが…。

（法人評議員）

現在の大学紛争は治安の対象だ

小林定義

学園が混乱している以上、万難を排して秩序を許るのは当然である。現在の大学紛争は大学外の治安の対象として治安当局が直接行動を起すべきと思っている。学生はムードにつられて無目的であり、方法・センスとも低調だ。もっと青年らしい前向きな若さと情熱が必要である。それにしても理事者、教職員、学生とも主体的に建設的に物事に対処しようという心構えがない。創造がないところには何も生まれてこない。社会の現象・ムードに引きずり回されることなく、建設的な大学創りに力を注いでもらいたい。体育会としてはその行動が注目のマトになっているだけに慎重である意味では消極的であった。秩序の回復を第一義とした。

（ホッケー部監督）

バリストはあるまじき行為

小島憲

機動隊導入によるロック・アウトについては、局外者なので最近の詳しい事情がわからないので、今は何んとも言いかねる。

バリケード・ストライキについては、学生としてあるまじき行為であり、いかなる理由があろうとも許されるべきでないと思う。大学と言うのは、学問や真理探究の場であるから、単に本学一校だけの問題にとどまらず、社会的責任をも考え合せなければならない。最近は顧問会にも出席していないので、とやかく言えるわけでないが、本学の全ての大学人に誠心誠意をもって紛争の早期解決にあたって欲しいと願っている。私自身としては、具体的にどうすれば本当に明治大学のためになるのか、わからないと言うのが[illegible]だ。

（本学名誉教授・法人顧問）

社会的責任からの処置だ

小牧正道

対策会議で学長の意見に各学部長が賛成して大学の方針としたので、商学部長としては特別言うことはないが、学内の荒廃と社会的責任を鑑みて止むを得なかったと思う。私たちはバリケードを撤去してもしなくても大学の改革を目指しているわけで、商学部独自では科目改正委員会などで作業を進めており、自治会に具体的改革案を提示できる。しかし、八幡山で行なわれた全学集会を見てもわかるように、学生諸君の問題意識が非常に低い状態にある。方向性はどちらを向いても良いから、意識を高めて自治能力を向上させていただきたいと思う。教授会の自治も問題はあるが、教授は全員真剣に大学問題に取り組んでいる。

（商学部長）

大学院の荒れ方にショック

白石四郎

全国全共闘の拠点として本学が使用され、他大学生の宿泊所のようになってしまっていた。火炎ビンを使用するなど過激化してきた学生運動に、本学周辺の住民からも大学に対して何らかの処置を求める声が強く起こっており、大学としても社会的責任上、何とかしなくてはならなかった。

大学側が学生側の問いかけに真剣に対応しようという姿勢をみせたにもかかわらず、当初の「六項目要求」を、「安保・沖縄闘争勝利」という政治闘争に切り換え、一部学生の大学破壊活動に終始してしまった。

特に大学院の荒廃は予想を絶するものであった。先生方がこのショックから立ち上がるには相当の時間が必要だろう。

（政経学部長）

造反教授は本学から去れ

佐々木吉郎

大学紛争が政治闘争に発展してしまった現段階では、話し合いなどできるわけがないのだから、大学当局がロック・アウトした処置は誰が見ても当然といえる。むしろ遅すぎたと思っている。

先般大学院など構内を見て回りましたが、暴力学生の破壊活動にはイデオロギーを越えて、義憤を覚えた。特に貴重な書物・資料の散乱ぶりなどは悲しむべきことといえる。

今回の紛争で本学にも一部造反教授が出ましたが、自分の主張するような授業が出来なければ、他に求めれば良いのであって、学生の人気取りのために、ポーズをとるような教授は本学から去ることを勧めたいと思う。紛争が長引けば立法、財政のいずれからも廃校に追い込まれるだけに危惧していたが、一応授業再開の見通しがたったので安堵している。

（本学名誉教授・法人顧問）

社会的責任上やむを得ない

斎藤正直

私立明治としては、自衛上やむを得なかった。どうしてここまで追い込まれたかを考えてみなければならない。本学が全国の全共闘の拠点となり、市街戦まがいの混乱もあり危険であったこと、特に九月三十日には火炎ビンが明大内から投げられた。市民は大きな不安を抱いていた。その批判が本学と神田署に集中し、社会的責任が大きく問われた。また、学内の荒廃は想像を絶した。私大としては身銭で修復するしかない。財政的には膨大な支出を用し、破綻をきたす恐れもある。その上、このまま放置するとそれだけ回復期間が長びき、財政基盤の授業料が入らない。こういう時間的な制約もあった。バリ・ストはわりあい短期間であったにも拘らず、学内の破壊はひどい。これではこれから先、学生自治能力の甘さが憂慮される。私はロックアウトで紛争のメドがついたとは思っていない。むしろ問題はこれからだと思っている。

（文学部長）

結局話合いは力関係か

根岸貴通

機動隊導入、ロック・アウトは寮生の間でも非常な反発があった。われわれは七・一二の団交での確約事項（寮生が希望する時、大学当局は必要な条件を満し、いつでも団交を設定する）に基づいて、一〇・九に団交を要求したが力関係が逆転したのを理由に拒否された。今回のバリケード撤去は話し合いは力関係によるものでなければ成立しないという当局の態度が明確に浮彫りにされたことに意義があった。これまで寮闘委は独自の闘争を押し進めて来たが、内部的には四条件で獲得闘争を勝ち取ったとする総括を出す部分もいないわけではないが、ロックアウト――確約書ホゴで明らかな通り、われわれの入退寮選考権、管理運営権が教授会の自治範囲であった事実を直視して、寮闘争に全共闘運動の理論を浸透させさらに進化させて行かなければならないと思う。生田寮などは自治会の名で全共闘に参加することもあるわけで、寮規定にのっとってやっているのでは、教授会自治が認めうる寮自治の極限を越えることはできないのではないか。

（全寮委員長・工三）

一〇・二一で総反撃行動を

関口成一

今回のロックアウトの背景には当局と権力とのゆ着体制がありありと見えている。これらの弾圧に対し、われわれとしては徹底抗戦なしにバリケードを開けわたすことはできなかった。七人の決死隊は最小人数で最大効果をあげてくれたと信じている。

今後は、十・十一月闘争も闘い抜くなかで、権力に対して総反撃するつもりだ。そのヤマは十月二十一日の国際反戦デーであろう。この日に向けて、武装軍団の構築をはじめていく。十四日に予定されている全明政治集会はそれらの闘争の第一歩とし、安保・沖縄闘争を闘い抜くなかから、逆に学園闘争をとらえかえす作業を通して今後の明大闘争の方行性の明確化を計っていくであろう。いずれにせよ、当局の今回の策動は許しがたい。

（全明全共闘議長・商三）

大学の基本的な位置を認識

田川保男

全学バリケード封鎖という異常事態は、一日も早く正常化する必要があったし、大学は社会の中の一つの機関として、当然果たすべき役割と責任がある。この両面からみて、九日の機動隊導入は止むを得ないとみる。学生諸君は大学の基本的な位置あるいは性格を認識してもらいたい。大学の今後の交渉相手としては、やはり学生会・学苑会であろう。全共闘のような有志グループの意見も尊重しなければならないとは思うが。

（職員会幹事長・教務課長）

大学改革は断固推し進める

高木亀一

ロックアウトは本来望ましくないものであるが、今回の場合は止むを得ない措置であったと思っている。大学としては、学生の打ち出したあの政治路線にはとても対応することはできなかった。

しかし、学生が大学の問題点をついたことは事実だ。今後は誰が何と言おうと大学の改革を推し進めていきたい。学費紛争時の「教育研究改革委」が何の改革も成し得ず絶ち消えとなった事実もあるので、真剣な態度でこれに取り組もうと肚に命じている。

また、一般学生諸君の中には無関心層が非常に多いと聞いているが、そのような諸君も、今回の問題を自分の問題としてとらえかえし、積極的に改革について考えてほしいものである。

（工学部長）

いたしかたなかったと思う

武田 [illegible]

ロック・アウト前後は留守にしていたので何んとも言えませんが一般論を言わせてもらうと、機動隊導入は大学当局が要請したものかどうかわかりませんが、要請がなくとも入らざるを得なかった状況であれば、やはりいたしかたなかったと思っている。

教育が出来ない状態というのはもはや平常ではないわけで、正常化を志向するのは当然である。大学が学問する場である以上、学生は学問をしなければならない。大学の次元で政治を語ることに不可能でないが、学生が主張するのは批評ではなくて革命である。これでは見方、考え方に違いが生じるのは止むを得ないことだ。こうなった以上、大学内部で時間をかけて、正しい改革をして欲しいと思う。まず一日も早く多くの学生が授業を受けられるようにしなければならない。

（本学名誉教授）

あくまでもバリストは貫徹

中島悦勝

大学立法粉砕、改革準[illegible]委粉砕をスローガンにして本学・全国の大学教育問題を闘っているわれわれに、大学当局は社会的責任等々の美名のもとに物理的圧殺を加え、正常化を装っている。しかしこれは基本的なバリストの意義の誤認であって、根本的な解決にはならない。ロック・アウトをする理由の必然性は認めないし、公安当局の働きかけで大学の方針を決定する事実が暴露された意味は大きく、大学当局に対する一般学生の不信感を誘うものであった。これは大学が帝国主義の再編あるいはファッシズムの片棒をかついでいることのなにものでもない。我々もこれまで答申や団交を要求し続けて来たが当局は全て拒否して来た。一〇・二一闘争、十一月決戦が身近な現在、先のスローガンが出て来た社会的、歴史的背景を基礎にはっきり安保粉砕、沖縄解放を第一スローガンに掲げて大衆運動を盛り上げて行き、バリストを貫徹させて行くつもりである。

（二部共闘副議長・商二）

優柔不断の態度では不満

名川保男

とにかく大学が実力で解決できない時は、好ましいことではないが、警察力を借りることは止むを得ないことだ。一部少数の者のために、多数の学生が迷惑を蒙っているのであるから、国家の警察力を使用することは正しいことといえる。当局は勇断をもってどんどんやってもらいたかった。これまでのような優柔不断の態度では、全国の校友は満足できないだろうと思う。そして、勇気をもって、教育者としての責任を遂行してもらいたい。

（校友会長）

自治の自覚から"愛校心"が

中村一夫

われわれとしてはあくまでも話し合いで解決したかったのだが、全共闘が闘争をますますエスカレートさせ、闘争のための闘争と言っても過言ではないような状況になってしまった現在、当局のとった措置は残念であるが止むを得ないものとして受けざるを得ない。

今後は有志連合の署名運動にできる限り賛助し、学生大会を開催させてスト権の解除と中執のリコールを要求するつもりだ。

全共闘の破壊活動を非難するのはもち論のこと、それらの行動を許したわれわれ自身も、もう一度大学の自治を再考することが必要なのではないか。そしてひとりひとりがこの自治を自覚してこそ、真の愛校心も生まれてくるのである。

（応援団長・政四）

一般学生は無力だと痛感

浜中和恵

新学期が始まったばかりのこのような早い時期に学校側が機動隊を導入するとは思いませんでした。流会したけれども、学校側が四日に全学集会を開こうとするなど、一般学生に働きかけようとする姿勢が感じられた矢先だけに、機動隊による封鎖解除は残念な気もしますが、大学としては仕方なかったのかもしれません。全学集会は考え方が違う多くの人が話をできる場にしてほしかったと思いました。ロックアウト措置が解かれると授業が再開されると思いますが、以前と変らぬ講義内容なら積極的に再開を喜ぶわけにはいきません。バリケードは支持できませんが、このまま元の日常に戻るのには抵抗を感じます。一般学生は無力なものだと痛感しました。

（短大二年）

なくてはならぬ教育的秩序

[illegible]島則雄

同じ駿河台に位置し近接する付属高校としては、バリストやカルチェラタン騒動など教育上の好ましくない影響を与えてきた。われわれはバリケードを憂慮すべき事態だとみていた。だから、九日の導入という措置は十分に理解できる。やはり教育というものはある秩序があって、はじめてその効果を充分に発揮できるものである。紛争はこれから大学の時代から、やがて高校の時代へと移ってくるであろうが、学内にはおのずから教育秩序というものがなくてはいけないということを教えていきたい。

（明治中・高校長）

全学代表と当局は話し合え

三上英夫

四日の全学集会があいう形で流会になったので、今回の機動隊導入は止むを得ないと思う。また本学が外人部隊の全共闘の拠点になっているのは言語道断だ。実際問題としても四年生の卒業問題がある。明大の卒業生をぜひ欲しいという企業がたくさんある。この要望に応えなくてはならないし、大きく言えば、日本の経済発展にかかわることである。社会的責任はゆゆしい問題でもある。今日の全共闘の実力封鎖に対して、大学としてはそれに対応する実力をもっていない。不本意ではあるが、機動隊の実力解除は仕方がなかった。大学を改革すべき点は多々あるが、これをどういう方法で学生と話し合うかがまた問題である。セクトを乗り越えて、全明治の意志を反映した人を選出できるようなルールが欲しい。学部別・学年別に代表を選び、その中の全学代表と当局が話し合って、新しい明大を築き上げてもらいたい。

（評議員会議長）

権力の露骨な攻撃を糾弾

横谷優一

当局による今回の機動隊導入・ロックアウトという策動は、明大闘争の必然的帰結として生まれてきたものとは思われない。つまりこれは権力そのものが露骨に学生運動の弾圧に乗り出してきているところの一つのあらわれとしてとらえるのが妥当であろう。これらのことから、われわれは全国学園闘争が、既に階級闘争の中の重要な位置にあることを自覚するとともに、当局の権力とのゆ着を看破し、糾弾していかねばならない。

今後の闘争は、十月二十一日の国際反戦デーにどれだけの学生を動員できるかにかかってくると思う。その意味からも、十四日に生田で行なわれる全明政治集会は是非とも成功させ、二十一日への意志統一を計らねばならない。

あくまでも、当局への糾弾行動を起すと共に、ロック・アウト粉砕のため一層の闘争を盛り上げて行くつもりでいる。

（一部全共闘・政経二）

明治らしい雰囲気をつくれ

山口敏夫

大学当局も全学集会を開催するなど、努力をしていたようであるが、学生に妨害されてしまった。授業再開のためには、九月の措置は止むを得ないものだ。今回の紛争をみて感じたことは、明治のカラーがなかったということだ。明治とか早稲田というのは一種独特の雰囲気があったのであるが、今は個性がなくなってしまったような感じだ。そのための普断の努力を怠ったために、今回の紛争が導き出され、そしてその経過ぶりもまた、他大学の影響を受けて何ら変るところがなかった。大学をこれまで放置した執行部の責任は重大である。

（衆議院議員・昭38年法卒）

学園の荒廃にただただ暗然

和田英夫

私立大学の場合、国立大学とは違って経営基盤が厳しいということを前提として考えたい。国立で一回位入試が中止されても、給料が減る心配はないが、私立ではとうてい許されない状況にある。大学院の中で感じたことは、散乱、消失した資料文献はわれわれオール明大人の手によって回復するしかないということだ。国立では教授が身を切って賠償する必要はないが、私立大の損害は、明大自身が補修しなければならないのである。荒廃の様子にはただただ暗然としかいいようがない。バリケードという名は美しいが、もたらす現実は暗然たるものだ。これからの研究生活への再出発には頭を痛めている。少なくとも一、二週間は何もしたくない。ここまで荒廃させたのは、明大生だとは思いたくない。ともあれ、大学の再出発は大へんである。その厳しい現実を学生諸君に強く訴えたいと思う。

（法学部長）

教官と学生の血が通う場に

関場保

機動隊を導入してロックアウト措置をとったことは望ましいとは思われないが、大学としてはこのまま放置することもできなかろうし、やむをえなかったのではなかろうか。

今後は一日も早く本来の大学の姿にもどすべく、教職員・学生が協力して努力してもらいたい。学内の問題は当局者と学生諸君とが膝をまじえて十分に話し合ってもらいたい。なごやかな雰囲気の中で相手の意見をきくという態度が必要だろう。民主的に学生の代表者を選んで当局者と話し合うのがよかろう。

改革すべきは除々に為すべきである。大学は教官と学生との血が通いあうような場でなければならない。相手を憎みあうような状態は避けてもらいたい。

（校友会副会長・政経学部教授）

中執のリコール運動も考慮

渡辺健二

学生の手で自主解決できなかったことは非常に残念である。今回の闘争は三年前の学費闘争に比べて全共闘の組織力が弱く、六項目の要求も一般学生にとって切迫した問題ではなかったために、一部の学生の遊離した運動に終始してしまった。今後、体育会としては今までやってきた授業再開の署名運動を継続していきたい。そして、それをもって中執をして学生大会を開催せしめ、スト権を解除する方針であり、ゆくゆくは中執をもリコールしていきたい。

この荒廃しきった学園を一刻も早く正常化するために、体育会は全力を上げるとともに、学園内が正常化した段階で新たに学内改良闘争に取り組んでいくつもりである。

（体育会委員長・商四）